



くにたまの会会報

【第4号】

発行／くにたまの会
 島根県出雲市大社町杵築東195
 出雲大社社務所内
 TEL：0853-53-3100

小國神社

欽明天皇16年(555)創建と伝えられる古社。『続日本後紀』には「小國天神」の名が見える。中世以降は、遠江国一宮として崇敬をあつめ、徳川家康をはじめ徳川歴代将軍が篤く崇敬したことでも知られる。



ご挨拶

くにたまの会総裁
 出雲大社宮司

千家尊祐

会員の皆様に於かれては、日々に大國主大神様の御蔭を戴かれて、その神明奉仕と御神徳宣揚にお努めのことと存じます。「くにたまの会」も設立から五年の節目を迎えて、今後益々の成長・発展を期待するとともに、発足以来皆様より賜ったご厚誼に深謝申し上げる次第でございます。

本年は日本国憲法が施行七十年を迎えました。現代日本が出發して七十年が経過したことになりました。現憲法が制定以来一度も改正されず、今日まで堅持されている事実について皆様如何お考えでしょうか。戦後、我国は現憲法下で経済発展と平和を享受してまいりました。近年、我国の周辺では領土拡大主義を国是として近隣諸國に摩擦をもたらす国、欧米には保護主義を標榜して排外主義を煽る政治主導者が出現し、今後の国際情勢の不透明さは増すばかりであります。国内に目を移しても、互いに自己の利害のみに執心し、相手を思い遣る心の欠如著しい様子が、政治・経済・教育の分野に見受けられます。最近頻りに

聞く「付度」ではないですが、相手の立場になつて物事を考える分別を弁えてもらえればと強く思う次第でございます。

斯様な時勢に於いて私たち神職が為すべきことは何であるか、神職の使命とは何かを思慮するとき、ただ偏に「和合」の心の実践にこそあると思われまふ。

私たちが仰ぎ慕う大國主大神様は国造り・国譲り二つの大御業を果たされる中に、決して御自身の一存や独断に陥らず、調和と協調で以てその御業を果されました。

大神様がお示しになられた二つの御業に込められた和合の精神、それこそが現代日本に生きる日本人にとって大切にすべき心であると思ひます。

大神様より戴いた奇しきご神縁に結ばれた「くにたまの会」の活動を通じて、大神様の御神徳の益々のご宣揚と、会員神社のご隆昌を祈念するとともに、本会発展へ向け一層のご助力を賜りますことをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成二十八年年度総会

平成二十八年七月十二日、第四回総会が出雲大社を会場として開催されました。出雲大社が会場となるのは、平成二十四年の設立総会、平成二十五年の第一回総会に続いて三年ぶり三度目のことでありました。



当日は総会に先立って全員で本殿を正式参拝、総会は社務所二階大研修室に於いて、五十一社の会員神社の宮司・関係者が出席しました。総会では、はじめに神宮並びに奉務神社遥拝、国歌奉唱が行われました。続く千家尊祐総裁の挨拶では、同年四月に発生した熊本地震について触れられ、被災地復興へ向けた神社界としての取り組みの重要性を述べられました。議事は広瀬理事(荒井神社宮司)が議長となって進行され、平成二十七年事業報告及び会計報告、平成二十八年度の事業計画及び予算案が審議され、いずれも賛成多数により承認、可決されました。議事では、今後の会員拡充や会員神社相互の連携・協力へ向けた取り組み、新たに開設されたホームページの活用等について積極的に意見が交換されました。また発足当初より要望があった会旗(シンボルマーク)についても、会員相互の意見を集約し事務局で製作、この総会で提案したものが満場一致で承認を受けて、晴れて会旗が定まることとなりました。

研修会では、文化財建造物保存技術協会の岡信治氏より「出雲大社 平成の大遷宮 御本殿修造を終えて」と題し、八カ年に亘る国宝御本殿及び二十一棟一基の重要文化財修復に関する講演が行われました。昭和二十八年以来五十九年ぶりとなる御修造について、建築学や伝統技術といった分野に関する話や、先人である匠の技と真摯に向き合いながら、それを如何



に現代に甦らせるか、その腐心と葛藤について講演がなされ、出席者一同熱心に聞き入っていた。総会終了後は、会場を出雲市内のニューウエルシティ出雲へ移しての懇親会が催されました。地元愛好会による伝統芸能の安来節が披露されたほか、出席者からも参加を募るなど大いに盛り上がりを見せ、会員一同の和やかな笑顔とともに平成二十八年度総会は幕を閉じました。



一年に一度の限られた機会ではございますが、会員相互の親交・親睦を深める好機として、今後一層の盛会を期待したいと思います。

会員神社紹介

日光二荒山神社

【鎮座地】

栃木県日光市内二二〇七

【御祭神】

二荒山大神

主祭神 大貴己命

妃 神 田心姫命

御子神 味耜高彥根命

【御由緒】

当社は関東の霊峰と仰がれる男体山（標高二四八六m）を御神体山として奈良時代に創建された神社です。



天応二年（七八二）、下野の修行僧勝道上人が男体山の頂を極め、祠を祀ったことを神社の創祀としております。現在では、山頂「奥宮」・中

禪寺湖畔「中宮祠」・世界遺産地区日光山内「御本社」と男体山を中心

に三社が鎮まります。延喜式名神大社に列し、下野国一之宮としてその

神威を誇り、朝野衆庶の崇敬を集め、近年では良い縁を結ぶ神社として若い世代の方々が多く訪れ賑わいを見せています。

社名二荒山から「二荒」を音読みして「ニコウ」、これに「日の光」の字を当てて「ニッコウ」と読んだことから、日光の地名の語源とも伝わっております。

華厳滝・いろは坂・日光連山等が境内地に含まれ日光国立公園の中核をなし、その広さは約三四〇〇haに

及び、御本社の鎮まります山内地区は平成十一年にユネスコ世界文化遺産に登録され、日光の玄関口に架かる朱塗りの鮮やかな神橋もその中の一つに含まれます。

【例大祭】

例大祭は四月十三日〜十七日まで五日間に亘り執行されます。陰暦三月に行われていたことから「弥生祭」

の名で親しまれ、氏子各町からは花家体とお囃子が献備奉納され、「日

光の春は弥生祭から」と呼ぶに相応しい華やかな神事が執行されます。

【男体山登拝大祭】

この祭は毎年夏の七月三十一日より八月七日にかけて執り行われる祭です。

中宮祠より御神像を奉負し、山頂へ大神様を還御し奥宮に鎮まります。その間中宮祠では、毎夜午前零時に開門し山頂奥宮を目指す大勢の登拝

者で溢れ、道中六kmの山道を約四時間かけて登ります。無事に登頂を果した人々は、万歳三唱でご来光を迎え、家内の安全や家族の健康を祈ります。

【平成の大修理】

日光二荒山神社御本殿は元和五年に徳川二代將軍秀忠公により造営寄進された日光最古の建造物であります。此度、「平成の大修理」と銘打ち、平成二十五年より保存修理事業

を開始し、建設以来始めての半解体修理が実施されております。又、併せて御本殿国宝建造物指定に向け専門家による調査委員会を設立し学術

調査を実施しております。竣功は平成三十二年三月を予定しております。桃山様式の優雅な彫刻や彩色文様で

麗しく装飾された御社殿の完成と共に、多くの方にご高覧戴ける日を心待ちにしております。

【北岳南湖閣】（ほくがくなんこかく）



明治九年（一八七六）六月七日の明治天皇行幸以来、中宮祠には貴顕の人々が行遊した折の宿所となる施設

が社務所の他になく、その建物自体も老朽化が進み、神仏混淆の状況とも鑑みて新たな施設建設の議が起きた。明治天皇御小休所に当てられた

二間は行幸を記念するものとして残り、一階部分の増築と建物を二階建てとする方針を立て、明治二十年五月着手、同年六月十九日地鎮祭、七月四日上棟祭、十月二十九日竣工式

を執行して現在に至っている。「北岳南湖閣」の名称は第四代栃木県知事

の榊山資雄が命名したものである。大正天皇は東宮（明宮）時代に中宮

祠へ六度行啓され、同閣へご滞在された。

なかのたけじんじやおおくにじんじや
中之嶽神社・大国神社

【御鎮座地】

群馬県甘楽郡下仁田町

上小阪一二四八

【御祭神】

日本武尊命

大国主命

【御由緒】

上毛（群馬県）三山の妙義山は日本三奇勝の一つで山容は非常に険しく奇岩奇石が林立し、上毛かるたでは「紅葉に映える妙義山」と読まれ、その中心に鎮座する社で元は、波胡曾神を山の主と祀って来ました



が、山中に住み着いた山賊を日本武尊が退治した事から同尊を合わせて祀ったとされています。欽明天皇の御世に妙形氏が社殿を建立、寿永二年（一一八三）三月に藤原祐胤卿が神剣を奉斎、現在も当社に伝えられている。旧小幡藩の崇敬篤く、織田・松平の歴代領主が社殿・境内を整備するも、明治十一年（一八七八）山林火災により社殿・社務所をすべて焼失し、その後多くの浄財寄進によって復興、現在に至る。

【大國像と甲子祭】

境内には大国神社があり弘仁九年（八一八）大納言藤原冬嗣卿と弘法大師が登嶽し、出雲神大国主命を奉斎したと伝える。世に妙義の大福神と称され、元治元年（一八六四）甲子に関東一円・信州に多くの甲子講中が結成され、現在でも四季を通じて講中の参拝が絶えず、平成十七年には高さ二十メートルの大國像が奉納された。

甲子祭（子の日・子の刻参り）が有名で、夜中の祭事にも関わらず大勢の参拝者が訪れる。また、旧小幡藩は出世藩とも言われ、いつしか「出世だいこく」と呼ばれて、近年は群馬県選出の総理大臣・国会議員も親しく参拝される。

【URL】

<http://www.nakanotake.com>

おおよしろじんじや
大社神社

【鎮座地】

愛知県豊川市国府町流霞五番地

【御祭神】

主祭神 大国主大神

（大地主大神・幽冥大神）

相殿神 多賀大神・宇賀御霊大神

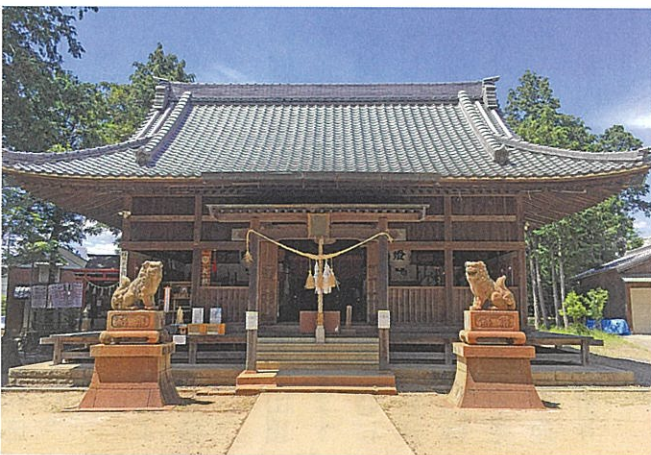
伊勢両宮・媛大神

【境内末社】

住吉神社 八幡社

進雄神社 御鋏稻荷神社

秋葉神社 金比羅宮



【御由緒】

社伝によると、平安時代前期の天元・永観年間（九七八〜九八五）の頃、三河国司に任命された大江定基卿がその赴任に際して、三河国の安泰を祈念して出雲国杵築大社（出雲大社）より大国主大神（大己貴命）の御分霊を勧請、併せて三河国内に鎮座する諸神も勧請して社殿を建立、創建したと伝えられる。

また、当社には応永七年（一四〇〇）奉納の「大般若経」が所蔵されるが、その裏書には「奉再興延暦庚辰」とあり、定基卿による御祭神勧請と社伝創建の以前から何らかの堂宇があったものと推測される。

江戸時代末期、慶応元年（一八六五）五月八日には、第十四代將軍徳川家茂公が、長州征伐に際して当社に立ち寄られて、戦勝祈願をおこなった際に奉納された短刀が社宝として伝わる。

【URL】

<http://www.ooyasiro-jinja.com>



会旗（シンボルマーク）決定



神社本殿を象徴する千木・鯉木を中心に置き、周囲を輪で取り囲む。

千木は天高く伸びるが如く、鯉木は水平方向に力強く、それぞれの神社の隆昌と御祭神の神徳高大さを表す。千木・鯉木を取り囲む輪はすなわち「和」を意味し、奇しきご縁に結ばれた会員神社相互の活動を通じた日本、或いは世界の平和実現を表しています。

くにたまの会 新規入会神社 (平成29年6月30日現在)

神社名	宮司名	鎮座地
金峰神社	成田平彦	秋田県
美具久留御魂神社	青谷忠典	大阪府
和布刈神社	高瀬泰信	福岡県
美和神社	矢野浩子	岡山県
手稲神社	山口雄之	北海道
一葉（稻荷）神社	石川浩	宮崎県

神社名	宮司名	鎮座地
眞昼山三輪神社	鈴木清文	秋田県
篠崎八幡神社	川江正文	福岡県
宗像神社	重村正紀	福岡県
高田總鎮守社 氷川神社	筒井正和	東京都
星置神社	加藤剛	北海道
大神山神社	相見行佳	鳥取県

平成29年6月30日現在会員数 225社

「くにたまの会」 会報ご寄稿のお願い

皆様よりお寄せ頂きました記事や情
報を会報に掲載させて頂きます。

就きましては、遷座祭・式年祭・特
殊神事・地域の伝統行事・身近な出来
事等どんな事でも結構でございますの
で、ご寄稿を賜りますようお願い申し
上げます。

送り先

〒六九九一〇七〇一

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社事務所内

「くにたまの会事務局」まで

電話 〇八五三一五三一三二〇〇

メール johno@izumoooyashiro.or.jp

※写真を添えてお寄せ下さい。

くにたまの会 入会のご案内

くにたまの会は、「だいこくさま」を奉斎する神社の全国組織で、御神徳の宣揚と
斯道の発展、鎮座地域の活性化などを目的に左記の活動を行なっていきます。

より大きな御神縁が結ばれますよう、一社でも多くの神社にご加入戴きたく、ご案
内申し上げます。

活動内容

- 親睦融和相互研修会
- 会員名簿の作成
- 会報の発行
- 伝統神事・民俗文化の交流・研修など
- 全国会員神社巡拝
- 会員神社の社報の交換
- 会員神社氏子の交流・親睦

※年会費は参千円です。



入会案内のしおりをお送り致します
ので、必要部数を事務局までお知ら
せ下さい。

「くにたまの会事務局」

島根県出雲市大社町杵築東一九五

出雲大社事務所内

電話 〇八五三一五三一三二〇〇

FAX 〇八五三一五三一二五一五